

瞬庵

(2001年)

勅使河原宏の追憶に

箏 1

演奏法：

楽譜はだいたいのもの 変えてもよい

拍はない 他の楽器とそろえない

きこえる音のあいまにじぶんの音色を差し入れるようにして

一音ずつ間をつめ あるいはひらく

(秋風調子)

箏

調絃：

絃はできるだけゆるく張る

他の楽器とはすこしずれるように 完全に合わせない

四、五、七、九、十、為は低めにとる

押し手は弱めにし、上がりきらずに

初段

箏からはじめる

三絃の終わるのを待って二段へ

箏 2

二段 目に映る断片にもとづいて自由に演奏 あるいは即興

十 九 斗 十 九
 六 六 斗
 十 七 七
 五 六 五 四
 八 七 六
 三 七
 二 八 八 九
 三 三 八
 三 四 四 九
 六 二 八 四 九 斗 十 九
 六 斗 為 七 七
 三 八 七 六 七
 三 七 二 六
 斗 斗 十 九
 六 五 六 五 四
 三 八
 八 九 八 七
 三 四 六 斗

三段 箏・三絃はほぼ同時にはじめ かなりおくれて 尺八が入る

十 九 斗 十 九 三 三 八 四 四 九 斗 十 九 八 四 九 五 四 五 六 九 二 八
 三 八 八 九 九 五 四 巾 為 為 六 六 斗 六 六 斗 二 十 斗 斗 十 九 為 六 斗
 二 三 七 六 七 八 斗 十 斗 七 為 斗 十 九 五 六 九 四 八 二 五 六 七 十 斗 十 九 六 五 六 五 四 三 四
 六 五 四 三 四 六 斗

尺八のおわるのを待たず 四段へ

箏 3

四段

箏 三絃 目に映る断片にもとづいて演奏 あるいは即興
 尺八がおわるとひとときわ暗くなり そのなかで唄
 唄は 次の詩句を箏・三絃で分担し
 目に映る手に合わせ
 あるいは手のあいまにうたい (フシは自由)
 あるいは語る

海辺の松の傾き に寄せかけられた

すきまだらけの空間

近づくと

この仮屋の内側も やはり砂丘

家は 幻

どこからともなく 人びとがあらわれ

なにかを待ちながら 空を見ている

箏 4

() 書かれた断片にもとづいて即興的に長く演奏し
しだいに次の断片に移る
前にもどってもよい

柱をうごかす

唄は分担

かぜ

おぼろづき

合の手

目に映る断片にもとづいて自由に演奏 あるいは即興

五十六五十六

六六斗六斗六斗

十九八七

九十八七三三六

七為八

三三六

四九四九四九四九

六五六

九八七

箏 5

後唄

書かれた断片にもとづいて長く即興的に演奏し
しだいに次の断片に移る
前にもどってもよい

唄は分担

浮かぶ たけ の
(竹)

ほのかな金色の 曲がり

足許に ささやくともしびの れつ
(灯火)

ゆらめく人影の ちゃかい
(茶会)

まばら なたけ のトンネルをくぐって まよい 出る
(竹)

かりそめの

狂言ぶ たい
(舞台)

偶然にまかせて切られた窓枠が

箏 6

八八九 巾七八 斗七 斗十 3 七
 2-3 六七八 十 3 四九 八七

かさなり 壁も 屋根 もない
 骨だけになってしまった

六七八 九 十 九八七
 七八 七八 七八 五六 十

またたき の いおり
 ささえあって

サ 九八 八九 十 九八七 カ 六五 V
 止メ 尺八が吹き終えた後で
 四五 六七八 九 八七六五

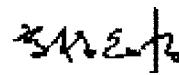
やっと 立っ て いる
 人の世の 夢

三絃 1

瞬庵

(2001年)

勅使河原宏の追憶に




演奏法：

楽譜はだいたいのもの 変えてもよい

拍はない 他の楽器とそろえない

きこえる音のあいまにじぶんの音色を差し入れるようにして

一音ずつ間をつめ あるいはひらく

三絃  調絃：
他の楽器とはすこしずれるように 完全に合わせない
D、G、A、C以外の勘所は低めにとる

初段

箏よりおくれて入る



三絃 2

二段 目に映る断片にもとづいて自由に演奏 あるいは即興

三段 箏・三絃はほぼ同時にはじめ かなりおくれて 尺八が入る

尺八のおわるのを待たず 四段へ

三絃 3

箏 三絃 目に映る断片を演奏 あるいは即興
尺八がおわるとひととき暗くなり そのなかで唄

四段

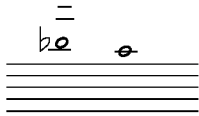
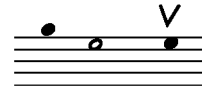
唄は 次の詩句を箏・三絃で分担し
目に映る手に合わせ
あるいは手のあいまにうたい (フシは自由)
あるいは語る



海辺の松の傾き に寄せかけられた



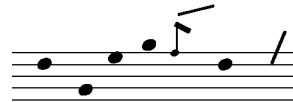
すきまだらけの空間



近づくと



この仮屋の内側も やはり砂丘



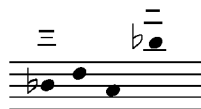
家は 幻



どこからともなく 人びとがあらわれ



なにかを待ちながら 空を見ている



三絃 4

() 書かれた断片にもとづいて長く即興的に演奏し
しだいに次の断片に移る
前にもどってもよい

唄は分担 かぜ

おぼろ づき

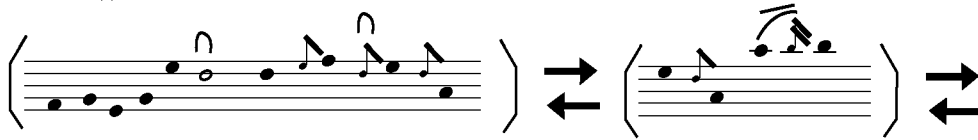
合の手

目に映る断片にもとづいて自由に演奏 あるいは即興

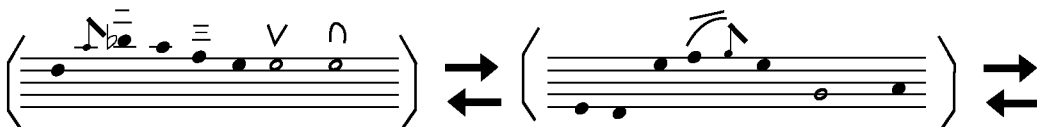
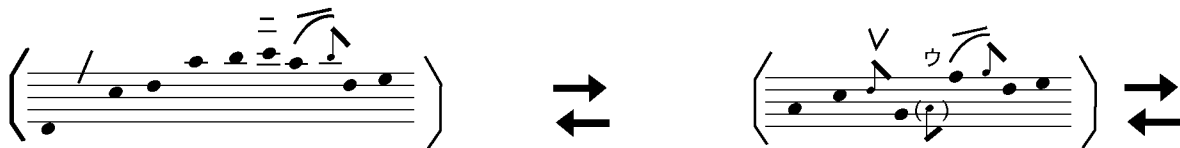
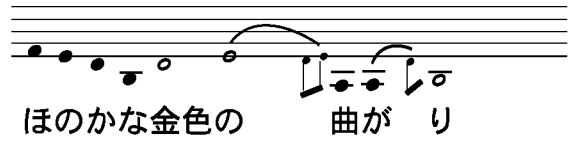
三絃 5

後唄

書かれた断片にもとづいて長く即興的に演奏し
しだいに次の断片に移る
前にもどってもよい



唄は分担



三絃 6

かさなり 壁も 屋根 もない 骨だけになってしまった

またたき の いお り ささえあって

やっと 立っ て いる 人の世の 夢

止メ 尺八が吹き終えた後で

尺八 1

瞬庵

勅使河原宏の追憶に (2001年)

あねと

演奏法：

楽譜はだいたいのもの 変えてもよい
拍はない 他の楽器とはそろえない
きこえる音のあいまにじぶんの音色を差し入れるようにして
一音ずつ間をつめ あるいはひらく

一尺八寸



調律：

他の楽器とはすこしずれるように 完全に合わせない
D、G、C以外の音は低め（メリ気味）にとる
スリは上がりきらないように

初段、二段は休み

三段 箏・三絃よりかなりおくれて入り、他が四段に入っても最後まで吹く

尺八 2

四段は休み

四段のあと

かぜ

おぼろ づき

書かれた断片にもとづいて長く即興的に演奏し
しだいに次の断片に移る
前にもどってもよい

合の手は休み

後唄……

やっと立っている

人の世の夢

止メ

コミ

オトシ